

石油備蓄の現況

平成19年9月
石油精製備蓄課

- 我が国の現行石油備蓄制度は、国家備蓄と、「石油の備蓄の確保等に関する法律」に基づく民間備蓄の二本立てとなっている。
- 平成19年7月末現在の我が国の石油備蓄は、

	【製品換算】	【保有量】
<u>国家備蓄</u>	<u>99日分</u> 4,840万k l (≒3.0億バレル)	原油 5,095万k l (≒3.2億バレル)
<u>民間備蓄</u>	<u>85日分</u> 4,150万k l (≒2.6億バレル)	製品 2,118万k l (≒1.3億バレル) 原油 2,138万k l (≒1.3億バレル)
<u>合計</u>	<u>184日分</u> 8,990万k l (≒5.7億バレル)	合計 9,352万k l (≒5.9億バレル)

(注) 四捨五入のため内数と計は一致しないこともある。

- 国家備蓄は、昭和53年度から開始し、昭和63年度に原油3,000万k lに達した。さらに、昭和62年11月の総合エネルギー調査会石油審議会石油備蓄小委員会報告を踏まえて備蓄増強を進め、平成10年2月に原油5,000万k lを達成した。
- 民間備蓄は、昭和50年度に石油備蓄法を制定（平成13年に「石油の備蓄の確保等に関する法律」に改正）し、石油精製業者、石油販売業者及び石油輸入業者に備蓄を義務づけており、備蓄義務量は平成5年度以降70日分となっている。

(参考) 石油備蓄の推移【製品換算】 単位：万k l、()は日数

	<u>国家備蓄</u>	<u>民間備蓄</u>	<u>合計</u>
18年 7月	4,833 (90)	4,326 (81)	9,158 (171)
8月	4,833 (91)	4,393 (83)	9,226 (173)
9月	4,832 (91)	4,436※ (84)	9,268 (175)
10月	4,833 (92)	4,483※ (85)	9,316 (177)
11月	4,833 (92)	4,455※ (85)	9,287 (177)
12月	4,833 (93)	4,253※ (82)	9,087 (175)
19年 1月	4,834 (93)	4,364※ (84)	9,198 (177)
2月	4,853 (94)	4,316※ (83)	9,169 (177)
3月	4,842 (95)	4,104※ (80)	8,945 (175)
4月	4,841 (96)	4,068※ (81)	8,909 (177)
5月	4,841 (97)	4,025※ (81)	8,866 (178)
6月	4,841 (98)	4,127※ (84※)	8,968 (182)
7月	4,840 (99)	4,150 (85)	8,990 (184)

※18年9月～19年6月までの民間備蓄石油保有量の統計数値について訂正。

我が国の石油備蓄の現状

平成19年7月末現在

石油備蓄
合計:184日分

国家備蓄:5,095万kl (原油) (99日分)

民間備蓄:4,150万kl(製品換算)(85日分)

国家備蓄基地 計:3,438万kl

民間借上タンク 計:1,657万kl

部分が国備基地

<我が国の国家石油備蓄基地>

- 沖縄石油基地(OCC) 367万kl
- 沖縄ターミナル(OTC) 128万kl
- 南西オイルターミナル 30万kl

- 西部石油・山口 119万kl
- 出光興産・徳山 13万kl

- 白島 522万kl
- 上五島 342万kl

- 串木野 168万kl
- 新日本石油基地・喜入 250万kl
- 志布志 438万kl

- 菊間 142万kl

- 新日石・大崎 34万kl
- 東燃ゼネラル・和歌山 9万kl

- 昭和シェル・新潟東港 29万kl

- 秋田 373万kl

- 新潟共備 87万kl

- 福井 284万kl

- 出光興産・愛知 52万kl

- ジャパンエナジー・知多 31万kl

- 三菱商事小名浜石油 50万kl

- 鹿島石油・鹿島 100万kl

- 富士石油・袖ヶ浦 47万kl

- 出光興産・千葉 29万kl

- むつ小川原 460万kl

- 久慈 167万kl

- 苫小牧東部 543万kl

- 北海道共備 284万kl

(出典)資源エネルギー庁作成